

平成 25 年 12 月

【配布先：全組合員】

市場情報

日 時 平成 25 年 12 月 6 日（金） 12 時～14 時 15 分

場 所 東京・鉄鋼会館

出席数 酒 匂 委員長他 16 名(最終頁参照)

経 過

1. 酒匂委員長挨拶

内需が牽引

今年の新年挨拶(組合機関誌の新年号)の中で、今年のスクラップ価格は3万年を突破するだろうと予想しました。それが今では4万円近くまで上昇しました。予想以上の速さで経済環境は好転しております。いろいろな会合に出席しても厳しい話は少なくなりました。母材の需給は急激にタイトになり、入手が難しくなっています。材料がいつでも潤沢でダブっている状況は好ましい状態とは言えません。川上も川下も需給が適正レベルで均衡していることが望ましい。この事態を踏まえて、加工流通各社は、物を大事に慎重に売ることに関心がある。来年4月以降も今のムードは崩れないだろう。あと6～7年は続くかもしれない。土木・建設関連需要は4～5年間は堅調に推移すると予想され、これに関連する建機関連分野も能力一杯の状況にある。内需は公共投資に喚起されて、先が読める時代に入った。これからも短期的な下振れ現象や変動は起こり得るが、あまり一喜一憂しないで、しっかりと腰を据え地に足を着けて頑張っていきましょう。皆さん、良いお年をお迎えください。

2. 各地区の需要動向

北海道

高稼働を持続

北海道の上空には、いよいよ本格的な真冬並みの厳しい寒気が入り込む季節となった。

札幌の街中まで出沒し警戒されていた“熊”は、どうやら冬眠期へ移り、やっかいな騒動は落ち着きを取り戻した。反面、周辺の方々では、スキーヤーやスノーボーラー待望のスキー場が一斉にオープン。冬山をエンジョイするシーズン到来となった。

市街地では、冬場の風物詩となっているホワイト・イルミネーションの彩とりどりの眩しい輝きが市民や観光客らの目を楽しませている。

「いくたびも 雪の深さを たずねけり」（正岡子規）。11月8日、札幌で平年より11日遅く、稚内で観測史上2番目に遅い初雪、12日には上川、宗谷地方においてこの冬初めて最低気温が氷点下10度を下回った。

道内の経済活動は、昨年に比べ様変わりの上昇傾向を呈している。日銀札幌支店の発表によると、企業の景況感を示す9月の業況判断指数（DI）は全産業で「プラス10」となった。主力産業である土木建設や、観光業が大幅に業績を改善していることが寄与したものとされている。

ただ、土木建設分野では、民間建築や公共事業が数多く出件されているものの、鉄筋工や型枠大工などの技術・技能職や関連資機材の不足と、単価の高騰により新規案件の契約の遅延・不調の頻度も上がっている。民間・公共を問わず工事の進ちょくの遅れも目立っている。

従って、先行き、まだまだ楽観できる情勢に非ず。依然、不透明感は払拭されておらず、確たる展望が見通せない状況が持ち越されている。

【鉄骨】建築着工統計から推計する‘13年1月～10月の鉄骨需要はトータル105,700ト（前年実績114,300ト）で対前年度に比べ7.5%の減少となった。

今後の先行指数となる北海道機械工業会鉄骨部会道央支部集計‘13年1月～11月の共同積算数量は累計139,441ト（前年実績125,046ト）で対前年度比11.5%増加した。

地域の鉄骨需要は、昨年からの継続3大物件（北海道新幹線函館車両基地、札幌三井JPビル、札幌競馬場スタンド）をはじめ、新幹線新函館・木古内両駅舎や漁港の荷捌き場、物販店、農業関連施設等中型物件の建設が相次ぎ、前年度比1～2万ト増の14～15万ト規模が予想されている。

過去の実績例からすると首都圏など他地区に絡むケースも少なくない北海道では、道外物件も5万ト程度が見込まれる。結果、全体的にファブリーケーター各社が見込んでいた数量をはるかに超え19～20万トに達するのではないかと関係者は予測している。

先行きの見通しは、遅れていた旭川や函館での大型案件の発注が漸次進捗、道央圏では札幌駅から大通りを中心に新規大型プロジェクトによる再開発計画が相次いで進んでいる。

道外物件は、主に首都圏の超大型ビルの再開発が目白押しの状況で、道内ファブへの協力要請が相次いでいる。現状、各ファブは来年の春先までフル操業の状態にあることから、需要があってもこれ以上受注できない能力一杯の嬉しい悲鳴を上げている。

年明け以降の引き合いについては、中小物件の動きこそ鈍いが、再開発計画の大型建築物件が出始めており好調。業界では、価格体系の大幅な是正を図る選別受注を推し進めている。鉄骨単価は全般的に上昇傾向にはあるものの、現状は未だ採算上満足できる水準には達していない。

【橋梁】今年度は、'12年度の大型補正予算も含め総量15,000トﾝ（前年度実績4,000トﾝ）規模へと大幅な拡大が予想された。しかし、実際には入札や積算業務の人手不足から発注は大幅に遅れた。設計済み案件も少なかったことから通年で11,000トﾝ前後の見込みと、大きな期待は見事に裏切られた。こうした厳しい環境に対しては、端境期対策となるゼロ国債・補正予算による鋼橋梁架橋の早期発注が強く望まれている。

業界では、ファブ間によって受注量に格差偏重が大きく、工場の稼働にバラツキは見られているものの、低調に推移した上期に比べると、下期の加工は上向き傾向となっている。

橋梁の延命・耐震対策や、補修・補強材としての落橋防止装置なども数多く出件されている。しかし、補修工事は新設に比べ多工種で小ロットの工事中心で、不採算となる場合が多い。加えて、他の公共工事と同様、人手不足や資機材の不足や高騰も相俟って、入札段階で入札不調や不落札が相次いでいる。利用者の安全安心のためにも補修工事が不採算に陥り問題が発生しないよう発注機関による歩掛かりの抜本的な見直しが強く求められる。

【切板】道内における切板の需要構造は、建築関連や土木・鋼橋梁向けが主体である。鋼橋梁については、前述の通り非常に厳しい状況を余儀なくされている。

建設用は、継続の著名物件とともに新幹線駅舎や大型物販店。本州建築案件の流入、中小農業関連施設の集中発注によるファブ筋の高稼働に伴い、シャー各社も支えられ年末に向け高い稼働率を維持している。

年度末から来年に向けて発注・着工が見込まれる、旭川駅複合ターミナルビル、明治安田生命ビル、札幌信用金庫本店ビルなど札幌駅前通りの再開発ビル。耐震関連物件など仕事量の急激な増加と人手不足や人件費の上昇。さらに鋼材価格の値上がりなどによって、工事の発注や進捗状況に遅延が生じ不透明感も残されている。

切板価格は、新規中小物件向けは価格の是正も進み収益の改善も進んでいる。大型建築物件向けについては、ファブ業界選別受注に供給し大幅な価格是正や収益改善に強力に取り組み上昇傾向にはある。しかしながら、現状は採算面からすると満足できる水準ではない。

需要の回復は、メーカーの厚板引き受けも非常にタイトに終始しており、特にS S 400・SM400B材については歯抜けサイズが発生している。この機を選別受注のチャンス到来と受け止め、業界一丸となって適性利潤確保に全力投球することが喫緊の課題と思われる。

（玉造(株)・西村 孝治）

東 北

復興事業進む

岩手県・宮城県ともに沿岸部の復興事業が依然活発で、土木関連工事に加え水門・防潮堤建設も発注が相次いでいる復興に関わる運搬車両の増加に伴う渋滞の緩和に復興支援道の整備・三陸道拡幅工事など、大型橋梁の発注も具体化している。

建築の復興関連では、災害復興住宅・特別養護老人ホーム・病院の建設が始まっており、それ以外でも物流倉庫・ショッピングセンター・地下鉄開業に向けた再開発、仙台駅周辺開発・仙台港背後地開発など宮城県を中心に需要が高まっている。

F A Bの稼動も年度内、見積中も含めれば来年夏場まで十分すぎる加工量は確保出来ており、仕事を選ぶ状況になりつつある。

F A Bの多忙化に伴い二次加工業者の繁忙感も高まり、B H業者・孔加工業者は納期対応に追われている状況でこれ以上の受注は回避せざるを得ない会社も見受けられる。

切板についても各社稼働率高く、設備投資を考える業者も増えている。

今後東京地区の大型プロジェクトも控えており、繁忙とタイト感は加速するものと思われ、これに適正な加工賃を確保できればようやく業界にも春が来るのだが…

(J F E 鋼材東北・大柴宏和)

東 京

建産機、回復基調鮮明に

前回報告時は回復気配の始動が感じられる程度であったが、部会シャーにおいては足元の受注動向から判断すると、回復基調が鮮明になってきたと言える。特殊要因による極端な不振が続く鉱山機械を除き、全般的に受注増加の報告が出来ることは喜ばしい限りである。

しかしながら、これらの受注増は消費税増税・排ガス規制前の需要の先食いとなる可能性は高く、この反動減が懸念されることや、海外生産シフトの動きが止まっている訳では無いだけに、先行きには不安要素も多いことも事実である。

【建設機械】 内需の急激な回復と共に輸出も増加し、10月の工業会統計では3カ月連続で前年比プラス(21%)の結果となった。建設機械全体の回復が本格化してきたようである。

・油圧ショベル 排ガス規制・消費税増税前の駆け込み需要や復興・土木・建築需要が本格的に動き出したことから、国内向けは前年比+55%と堅調に推移している。関係シャーの年度内の加工量も高水準を維持できる見込みである。

・ミニショベル 住宅需要の増加による影響から国内向けが堅調であり(+4%)、輸出も北米

向けを中心に大きく伸びており (+32%)、暫くはこのレベルが続きそうである。

- ・建設用クレーン ラフレンクレーンは、内外需共に好調さを持続している。国内向けは増税前の駆け込み、中古機械価格の上昇、公共事業を始めとする建設工事の増加期待等々から、また輸出は円高修正の影響もあり好調。足元の生産はリーマン前の水準を大きく上回っており、当面この基調に変化はないとみられる。6

クレーンは長期低迷後、夏前頃から急激に回復しており足元の生産は1～6月の実績からみるとおよそ+30%のレベルとなっている。輸出の回復と同時に国内公共事業や建築案件を考慮すると、需要は底堅いものと期待できる。

- ・ホイローダ 復興需要と季節要因からくる雪寒車向けが大増産。この機種においてはフル操業状態が年内続く。

【鉱山機械】 燃料炭の価格下落の影響から、機械販売が昨年夏場から急減。一年以上の生産調整にも拘らず、まだ底入れは確認できず先行きも見えない状況である。

大型機械だけに関係シャアの加工重量及び付加価値減の影響は甚大で悩ましい。

【重電】 以前からの引き合い案件であった、インド/火力発電・サウジ/変圧器等の案件が足元の加工に結びついている。他にもタービンのケーシング受注が大幅に増えていることから年明けまではまずまずの稼働が維持できそうである。また先行きも変圧器の受注が見込まれることや、現在加工中の継続案件の引き合いもあり、これらに期待したいものである。

昇降機のエレベータ向けの加工量はほぼ昨年並みを確保しているようである。現在建設中のビルや、25年以上経過したものの更新需要が今後も見込まれることを考慮すると来年度以降は確実に受注が増加すると思われる。

【板金・鍛圧機械】 10月受注は「国内の設備投資環境が良くなっており、海外も欧米に動きが出てきた」(工業会)ことから前年比で37%増の結果となった。関係シャアの足元の加工量は前回報告時からみると20%程度増加しており操業度は回復模様。

- ・板金系 10月受注は+43%の増加。レーザ・パンチング・プレスブレーキのいずれも大幅に受注を増やしている。先行きも需要家の見通しは強気であり、不透明な点はあるものの当面堅調に推移する見込み。
- ・プレス系 10月の受注実績は超大型以外小型から大型まですべて受注増となっていることから、43%増と好調。切板加工量は足元もまずまずのレベルで横ばいとなっており、需要家の受注回復基調の流れから推測するとこの状態は続きそうである。

【フォークリフト】 リーマン前のピーク時からみると7割弱の生産であるが、排ガス規制前の

駆込み需要から10トン以上の大型フォークが大幅に受注増となっている。

大型の増産だけに切断加工重量としては増えているとみられる。

【ダンプ・トレー】 10トクラスのダンプは各メーカーともフル操業が続き、さらに受注残も大量に抱えているため生産計画も上方修正されている。 足元は排ガス規制前の駆込みと、これからも続くと予想される被災地向けの需要等から長期に亘り堅調さを持続できる見込みとなっている。 また重機積載用トレーラーも絶好調で、この部門における加工量も暫く確保できそう。

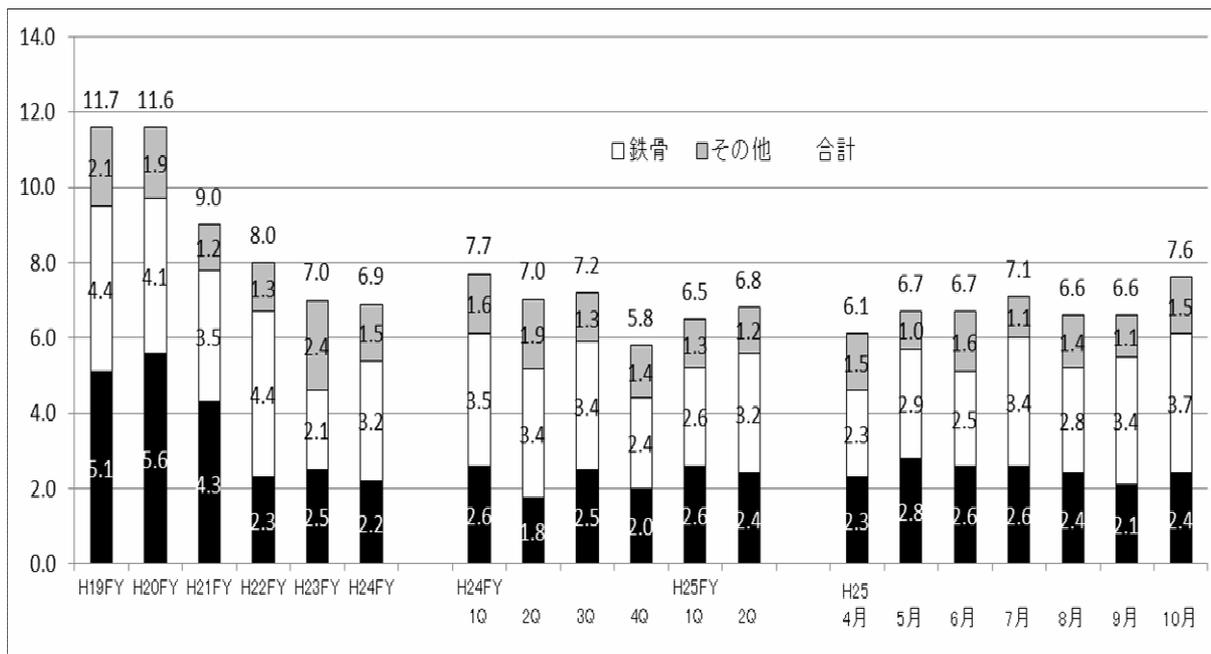
【産機 店売り】 長期の低迷から脱出し、漸く受注状況に好ましい変化が見られるようになった。 本格的回復までには至っていないものの、売上・加工重量とも増加している企業が徐々に多くなっており、景気回復ムードやオリンピック招致決定等で関東圏では先行きに期待できそうである。 素材価格改定幅の需要家への転嫁はまだ難航しているが、素材供給のタイト感もあり適正レベルへの早期是正を待ちたいものである。

(ニューエイジ・池田啓志)

東京

鉄骨分野を中心に徐々に回復

1. 規格建材部会加工量推移 (千ト/月)



2. これまでの実績

【全体】 主力の当地区建材分野の活動は、鉄骨分野を中心に徐々に回復しており、シャー加工量も増加基調。

しかしながら、橋梁向け絶対値レベルは未だ低位であり、鉄骨向けも切板明細遅れや能力不足による加工遅れあることから、本格回復には至らぬ状況。

【橋梁】 現時点での全国橋梁落札量(H25FY)は、168千トと順調に推移しているが、昨年同様に関東地区以外の橋梁ファブが上位を占めている状況であり、上期までのシャー加工量は、昨年度を若干上回る程度にて推移。

【鉄骨】 首都圏大型再開発案件の着工が本格化され、当地区Sグレードファブの加工量は、徐々にピークに向う状況。

但し、ファブからの切板明細発注の遅れ（GC との間での図面承認遅れ等が要因）やファブ能力不足による加工遅れ等あることから、シャー加工量は増加基調なるもばらつきあり。

3. 今後の動向

【全体】 橋梁・鉄骨分野のファブ稼働は、関東地区橋梁ファブの加工量拡大や大型再開発案件の本格着工を背景とした鉄骨ファブのフル生産化の時期を向え、年末より高位の状態が継続する見通し。また、年度末に向けては、土木プロジェクト(セグメント)もスタートする見通し。

シャー稼働も主力分野の活動増加を受け、12月以降はフル生産化する見通し。但し、以前に比べると小単重化が進展しており、納期対応に苦慮するケースもありうる。

【橋梁】 関東地区橋梁ファブの山積みは、年末に向けて高くなる見込みであり、年度末に向けて落札量も増加予定。

年度末までの山積みが確定している状況ではないが、シャー加工量も年末以降高位にて推移する見通し。

参考1 <全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ト>

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	H23FY		H24FY		H25FY								
					上期	下期	上期	下期	上期	下期		下期					
										1/四	2/四		3/四	4/四			
橋梁入札量	417	324	305	283	96	171	267	100	130	230	30	83	113	67	70	137	250

【鉄骨】 当地区Sグレードファブは、若干の月差はあるが、ほぼ12月以降フル生産化となり、その後1～2年は高位の操業レベルを維持する見込み。しかしながら、大型案件の着工レベルは、ファブ製作能力を上回る(*)状況となっていることから、工事遅れの懸念有り。 *一部ファブでは、外注化検討もHグレードファブも山積み高く、断念。シャー加工量も年内にはファブのフル生産規模まで増加する予定であり、当面高位の加工レベルにて推移する見込み。

参考2〈全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ト〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	H23FY		H24FY		H25FY								
					上期	下期	上期	下期	上期		下期		H25FY				
									1/四	2/四	3/四	4/四					
鉄骨需要量	642	589	391	418	224	207	431	238	223	461	127	129	256	127	122	249	505

(富士鉄鋼センター・三浦潔司)

東京

好循環の中で改善努力を

【現状】 全体感としては上向き傾向がハッキリとして、一部シヤ業者では超繁忙を極めており来年3月まではどうにもならない位の受注残となっている様子である。

また、今はまだ山積みが高い業者も12月の中旬以降の山積みが確実に減っていることから、順次高操業となって行く事が予測されている。

メーカー価格もハイピッチでの値戻しが実行されており、FAB鉄骨価格も値上げ交渉が行われる中、我々の切板価格も見直しがなされる状況になっている。

【在庫】 在庫減に向けた努力が需要増とマッチした為、適正在庫量に動いている。

この状況下、ミルのタイト感は一層厳しくなっており、現状70日～物によっては90日以上引き受けとなっている。需要に合わせて素早い手配を行うなど、タイムリーな受発注が求められる

【今後】 建築業界にとっては、やっとりーマンショック以前に戻る感覚と言えると思うが、絶対量の減少は元には戻ることには無いであろう。こうした中で、我々シヤ業者は加工設備への特化等だけでは無く、ユーザーとの間で適切なやりとりが行われ、無駄な作業や材料の無駄遣いを排除するなど、効率UPを目指しながらの稼働が維持できるよう対応していくしかないと思われる。これからの好環境の中で、どれだけ改善に取り組み、対応力を付けることが我々が生き残る為の本来の姿ではないか。

(丸東興業(株) 秦 弘志)

東 京

店売りは上向き傾向

浦安地区の店売りシャア業者の状況は、8月以降好転し始め、10月以降も売り上げが増えてきている。全体的に上向き傾向にあるが、素材値上げ分の価格転嫁は、まだ半分にも達しておらず、収益の圧迫要因になっている。2段階方式での転嫁を目指している。国内材の値上げと入手難により、夏ころから外材の入着が増加している。

(武部産業(株)・長澤裕介)

新 潟

増加傾向続く

新潟地区の状況ですが、着工面積から算出する鉄骨量では、4～10月で6万3千トン、通期予想では10万9千トンと、昨年比134%上回った推移となっております。物流倉庫や食品関連の本社ビル、民間の工場などの設備投資案件もみられ、県内のFABは何処もフル稼働となっております。

また、規模は大きくはありませんが、橋梁の入札も増えており、地元FABの仕事量増加につながっています。Hグレードでは来年夏ごろまで、Mグレードでは、来年4月ごろまでの受注残となっております。

その他の産業としては、車両関連や建設機械の下請け企業は好調を持続しており、産業機械や一般店売り分野でも、以前より引き合いや見積もりの増加など、改善の兆しが見られております。

県内の各シャア業者も、徐々に稼働率は改善しており、一安心しているところではありますが、問題点も抱えております。切板の少量、多品種、短納期に相変わらず苦しめられており、稼働と生産量が比例しない。メーカーロールがタイトになっており、ロールと物件納期がかみ合わない。輸送関連ではトラック不足。電力や液酸の値上などといった状況があります。今までは工場稼働を重視した受注を行ってきましたが、今後は価格面においても、メーカー値上分の価格転嫁はもちろん、コストアップ要因などの加工賃の是正も合わせて行う必要があると思っております。

(藤田金属・多村嘉人)

東 海

好調キープ

前回、産機向けのシャアは秋需に期待と報告しましたが、9月～11月の3ヵ月は、月によってバラツキはあったものの、総じて各社とも好調で、期待していた秋需という一時的なものではなく、数量、売上とも満足のいく数字が残せました。

店売りシャーは、前回同様、土木や耐震関係、また消費税駆け込み前の工場の設備投資、復興関連など多彩で、前回報告した時より受注量が増えているので、仕事がない時は、お客様の言われる今日の明日という納期を守ってきましたが、各社とも忙しくなり、なかなか答える事が出来なくなってきました。我々にとっては良い事ですが、お客様とも話し合っただけで少しづつ納期をいただける様になり、歩留まり向上を含めた生産性の向上も計れるようになってきました。

後は、各社とも歯抜けのある厚板を、一時的な貸し借りで凌いではいませんが、厚板の入荷が少しづつ遅れている不安と、ここまできても、思うように価格転嫁が出来ない焦りがあります。

一方ヒモ付きシャーも前回と同様で好調をキープしています。

建機 リフト

前回同様相変わらず、ピーク時の生産量をキープしており、下期だけ比べても前年の生産量の 5%~8%アップしており、国内向けも好調なので、一部に海外工場生産の話もありますが、当分このまま好調に推移すると思われま

クレーン シャベル

前回の報告とほとんど変わってなくて、相変わらず鉱山用の大型建機は低迷していますが、中型、小型のクレーンや杭打ち機等は、消費税前の駆け込み、震災の復興関連、又は、オリンピックがらみのもので、生産品にユーザー名の記載されたものが、

前回以上に増えてきて、長い期間の工程表が出てくるようになりました。

トラック

トラックも前回と変わらず、ピーク時の 20%ダウンで推移しています。

今のところ、工場の海外移管の話は出ていないので、東アジアの輸出は落ち着いていますが、来年もこのペースで進むと思われま

鉄道車両

前回の報告どおり、ユーザーの海外移管に伴い、海外工場向けの製品を輸出してきましたが、二年先には完全に海外移管が完了する予定で、仕事量の激減が予想されます。

産機 鍛圧プレス

今期当初は、生産を前期並みと予定していましたが、4月頃から復興関連で上ブレを始めて、9月からは、政府補助金や消費税の駆け込み、好調な北米、欧州、

台湾への輸出、それに中国の輸出回復などで、前年比 30 パーセントアップ、10 月は今期最高の生産量になりました。また、11 月も高水準の生産量をキープしていますので、暫くこの状態が続くと思われま

その他工作機械

タレパン、ベンダー、バンドソー等国内、海外輸出とも前回同様好調をキープしています。

それに加えファイバーレーザーの輸出も好調になってきました。

IT 向け専用機

スマートフォン向けのチップ取り付け用の専用機等は、海外移管された分は好調のようですが、一部海外では製品精度が悪い為、国内で生産を戻したのものに関しては、量は余り増えていません。

造船

デッキクレーン

前回同様少しは仕事が戻っていますが、通常時に比べても格段に生産量が少なく苦慮の連続です。

昇降機

前回大型エレベーターが出てきたので切板が増えてきたと報告しましたが、その傾向に益々拍車が掛かり、9 月～11 月は中国の輸出向けの材料が多く出ました。これは来年の年初まで続くと思われま

す。エレベーター自体は 2014 年まで、好調な生産を維持していくと思われま

す。今回は、材料の品薄状態や一向に進まない価格改定の問題はありますが、仕事量としては、リーマンショックや震災以後初めてと言っていいぐらい東海地区の産機シャ

ー各社は全体的に良かったと言うところがほとんどでした。この少し明るい空気の中で新年を迎えられることは、来年への希望も膨らむし、期待も出てく

ると思っています。仕事量に対しては、是非このまま好調をキープしたいものです。

(鈴木鋼材・鈴木康司)

東 海

適正加工賃の確保が必須

建材はスポットの連続であり、メインの客先の受注状況、受注内容によって各社の稼働状況はマチマチとなっており11月についてはエアポケットに入った様な感じである。

ただ 採算は別にして、6月～8月よりも受注数量は底上げされている模様であくまでも 一時的なものと思われる。

一般的に言えることは、8月後半から徐々に受注量は増えており、足元はフル稼働となっているとの会社が多くなっている。

また最近では客先のニーズが多様化し、孔明け、開先などの一次加工を含めて受注するケースが多くなったものの、相変わらずリードタイムが短く、早出・残業さらには休日出勤で対応している。

また 現在は一時の慌しさに比べ、受注量が少し落ちついているところも、客先の受注が堅調に推移しており、先々の引合いも旺盛であることから慌てて工程を埋めにかかることは無く、楽観視している状態である。

価格は足元のファブリケーターの鉄骨受注単価が需要増と材料高を背景に鉄骨受注単価が底上げされており、切板単価も少しづつ上がってはいるものの、半年前に見積もった物件や、継続物件もあり採算的にはまだまだと言ったところである。さらに切板価格も上がっているが、素材の値上げを転嫁するには至っておらず、この期に適正加工費の確保をしたいものです。

(中部鋼鉄・南 信年)

大 阪

スポット物中心

【全般】

(1) 需要

建築土木を中心に SPOT の仕事が増えており、引合いも多い。

新規ロールの入荷遅れ、原板納期の長期化、在庫の歯抜けなどが重なり材料が不足する懸念がでていいる。その様な懸念も仕事が出てきている要因の一つである。

(2) 一般店売

上記の通り、建築土木向けが出ていいる。

関東の建築案件に加えて、復興関連の仕事が出ていいる。敷板の引合いも多い。

産機関連の仕事は増えていいない。

【需要部門別】

(1) 橋梁

前回と大きな変化なし。

入札は順調に実施され、年間発注量は対前年5万t増の28万tレベルで推移している模様。

但し、受注するFABに偏りが見られ、関西地区専業FABは低調。

JFEエンジ、横河の落札物件が多い。

(2) 鉄骨

大阪地区は、今後の大型建築案件少なく、大きな需要は期待できない。

関東、名古屋の案件を関西で加工している。関西の中小物件は出ており、H・MクラスFABは半年～1年先まで仕事が埋まっている。BH・BOX・コラム業者も同様。

SクラスFABも、先々まで埋まりつつある。

(3) 建機

前回と変動なし。

大きな変動はないが、足元は堅調。但し、10月以降はコマツ関連は減少。

小型ショベルなど細かい部材が出ており、多忙となっている。

来年はコマツは悲観的な見方をしているが、その他は楽観している模様。

(4) 産機・その他

産機は低位安定で変化無し。

(日鉄住金神鋼シャーリング・浅野博之)

(玉造・棚橋浩司)

九 州

需要全体が上向き

前回と同様、大半の業界で需要は上向いている。建材系シャーはほぼ100%近い稼働となっている。産機系シャーも稼働は上向いている。

足元の課題は材料入荷が遅れていることで、高い山積みはあるものの「切る物が無い」状況でスムーズな生産増とはなりにくい。

<建築>

今年の夏場前頃から動きだした建築案件もピークを迎えており、各ファブともかなりの仕事量を抱えている。Hクラスは来年夏場まで、Mクラスは5月頃までの仕事量となっている。病院・物流倉庫・官公庁案件・再開発案件・電力案件と多岐に亘ってい

る。ファブの下請加工業者も仕事が入っており対応できない状況。また、形鋼の一次加工業者やBH業者も多忙となっている。

今の所、建築案件としては来年上期まで現状の高い稼働が続くものと予想される。

<土木>

橋梁も満足のいく数量ではないが上期よりは増加しており、また福岡～熊本地区での新規発注が期待されている。10月の公共工事請負金額も対前年比では18ヶ月連続の増加となっている。補助金がらみの漁業関連事業や農業用ビニールハウス向け加工品も増加している。

トピックスとして、佐賀県ではクリーク防災事業や集落排水事業で20件の入札不調があった。(昨年は不調は無し)理由は資機材(敷鉄板とロングバックホウ)が不足していることと下請企業が確保できないことによるものとのこと。

<産業機械>

九州地区では分野によって違いはあるが、設備投資が本格的に回復していないため一般産業機械は盛り上がり欠けている。

製缶・タンク向けではやや低調。石油タンク向けは一段落しているが、LNGタンク向けは既発注分が工事進行中であるが来年度は発注案件が増加しそうである。原発汚染水タンクも来年早々からの加工が予定されている。また、国内電力向けでも新火力発電所向け案件や原発安全対策工事が出件されている。

小型建機メーカー向けは消費税値上げの需要増で上期より10%程高い生産となっている。

<造船>

中手造船会社は比較的に高い稼働となっているが、小手造船会社は受注の伸びがにぶく、現状は懸命なコスト削減に取り組んでいる。

中手でも受注船は小型化の傾向にあり、材料明細でも以前より薄肉となっており、高炉メーカーの生産量が伸びない一因ともなっている。

(豊鋼材工業・橋本勝美)

九州

総じて堅調

需給バランス逆転現象が顕著に表れており、市況の立て直しもスピード感を増している。スポット案件に関しては、シヤの在庫率低下また短納期対応により高値に推移している。

【建機・産機】

建機については排ガス規制駆け込み需要により、生産増も下期は苦戦が予想される。

産業機械分野（特にタンクメーカー）は未だ工場余力があり、1月～3月の受注活動をしている需要家もあり、需要の濃淡が分かれる。

【造船】

地域全般的に需要が回復し、2015年度いっぱいまで船台期間を延ばしてきている。

船首としては、船価が底と見た投機的発注要素も含まれており、下期からの価格交渉はかなり難航すると思われる。

【建築】

地区S増建築着工床面積が4月～9月274万653㎡。前年度比18.8%増加となりFABの供給能力が問題となる。

製造業の業績改善等で設備投資意欲が向上し工場建設案件が散見される。

また、太陽光・プラント架台（九電案件）なども多岐に渡って需要の広がりを見せている。大型再開案件は下期に集中するが、マルチテナント型大型物流倉庫の発注等、建材系シャワーは繁忙期を向かえる。

（トキワスチール・岡 哲朗）

3. 高木理事長挨拶

「本日、全国各支部の市場委員から報告をうかがって、徐々に良い年末を迎えた感じがする。前回までは跛行性があったが、各機種ともそこそこのレベルで推移している。都市圏と地方圏のミゾも埋まってきている。これはアベノミクス効果だけでなく、過去の経験を糧に一人一人が危機感を持って取り組んできた成果である。日本人の気持ちが東京五輪決定で変化し、経済全体の構造も公共投資が呼び水になり内需主体に転換している。このムード・基調は当分の間続くだろう。我々はこれをいかに享受するかであるが、能力不足と材料面の制約が今後ネックになるとみられる。例えば、本年度の鉄骨需要は足元500万ト強が予想されており、実際は550万トに達するとの見方もあるが、ファブはこれまで痛い目に合っているので、設備は増やさないだろう。

シャワー業も売上量が増加しても、収益が上がらない「貧乏暇なし」状態が続いている。ユーザーの言い値で仕事をやってきた習慣が残る限り、この状況は変わらない。適正な切板単価に是正するタイミングは今しかないと思う。年末年始は心身ともにリフレッシュし、来年への英気を養ってください。皆さん良いお年をお迎えください。」

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

委員長・ 酒匂 (京浜産業)
ゲスト・ 高木 (理事長/富士鉄鋼センター)
北海道・ 西村 (玉造㈱)
東 北・ 大柴 (J F E 鋼材)
東 京・ 池田 (ニューエイジ)、
三浦 (富士鉄鋼センター)
秦 (丸東興業)
長澤 (武部産業)
原 (原シェアリング/ゲスト)
松丸 (ティー・エル・シー/ゲスト)
新 潟 多村 (藤田金属)
東 海・ 鈴木 (鈴将鋼材)
大 阪・ 浅野 (日鉄住金神鋼シャーリング)
棚橋 (株玉造)
九 州・ 橋本 (豊鋼材工業)
事務局・ 柘野

4. 次回の開催日時・場所

第160回市場委員会

平成26年3月7日(金) 12時

大阪鉄鋼会館

以 上